

FRUEHAUF Fan

2008 Summer Vol.7

[フルハーフ・ファン]

特集:株式会社TRUCK-ONE



株式会社TRUCK-ONE
代表取締役社長 小川 遼雄 氏

レンタル用
2室式
冷凍車

「フリーファアーエース」 小型温度管理車 軽量ボディ追加



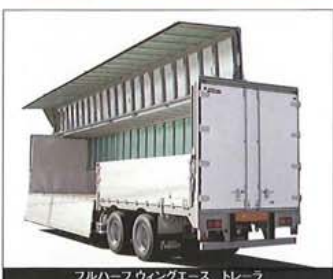
「フリーファアーエース」小型温度管理車
GVW5トン未満軽量ボディ

日本フルハーフは小型温度管理車用バンボディのGVW・車両総重量5トン未満クラス軽量ボディを追加し、6月2日より発売しました。2007年6月2日以降の普通免許取得者が運転できるのはGVW5トン未満の車両までです。今後のドライバー確保のため、また省燃費運行のため、このクラスの車両の軽量化を図りました。

軽量化により、GVW5トン未満で積載量2トンを確保する車両範囲が拡大されています。

また、軽量化と併せて熱性能劣化防止や環境対策にも配慮し、リヤドアやサイドドアの芯材をグラスレシ化など、各部で木材レス化を図っています。

新型ウィングトレーラ 「フルハーフ ウィングエース トレーラ」発売



フルハーフ ウィングエース トレーラ

日本フルハーフは、このたび、新型ウィングトレーラ「フルハーフ ウィングエース トレーラ」を改良し、6月16日より全国一斉に発売を開始しました。

日本の運輸部門は、CO₂削減対策の環として、さらなるトラック輸送の効率化、車両の大型化、トレーラ化が求められています。そうした時代の要求を背景にして、アルミウィングトレーラのパイオニアである当社はウィングトレーラの改良に取り組み、高容積陸送・高品質輸送時代への対応を図りました。

〈主な変更点〉

- 高容積タイプの追加：中柱の突起が無いフラットな薄型高剛性アオリ



未装着車 (上) と比べて巻き込み現象が大幅に緩和。
未装着車 (下) と比べて巻き込み現象が大幅に緩和。
ウィング開閉にはスロースタート&ストップ機能を追加。
高容積タイプに採用された薄型高剛性アオリ。
高容積タイプは中柱部分でも内法幅2,410mmを確保。

フルハーフヒーローズ バン型セミトレーラ (1965年)



1965年、日本フルハーフは日本初の高速バン型セミトレーラの製造販売を開始した。米国フルハーフ社の技術を導入し、アルミニウムによる軽量モノコックボディを開発。その当時、シャシフレームをもたないモノコック構造は極めて先進的なものであった。また、1軸13.5トン積みセミトレーラは大型トラックに比べて回転半径が小さく、小回りが効いた。

未だホ口掛けのトラックが主流だった頃に颯爽と登場し、バン型トレーラ輸送時代の幕開けを告げる先駆者となった。

日本フルハーフグループの全国ネットワーク

フルハーフはISO9001/14001の認証を取得し、環境にやさしく、高品質の製品と高信頼のサービスをお届けしています。

営業品目: アルミバン、保冷・冷凍車、ウィングトレーラー、各種コンテナ、各種部品、修理

本社: 〒243-0281 神奈川県横浜市上依知上/原3034 Tel.046(285)3111(代)

東京事務所: 〒140-0001 東京都品川区北品川1-20-9(タグツチ品川ビル) Tel.03(3474)5720(代)

生産拠点: 苫小牧/厚木/滋賀/岡山/佐賀

販売拠点: 北海道 011(723)8750 / 盛岡 019(672)5472 / 仙台 022(783)8831 / 新潟 025(243)0520 / 石川 0299(24)1275 / 北関東 048(661)9051

千葉 043(287)9711 / 東京 03(3863)9011 / 多摩 042(655)5655 / 神奈川 045(662)2710 / 静岡 054(285)3397 / 北陸 076(232)5588

名古屋 052(532)7051 / 大阪 06(6390)8257 / 神戸 078(856)9230 / 岡山 0869(84)4300 / 広島 082(262)2005 / 四国 087(863)6078

九州 092(282)9600 / 南九州 099(284)1634



URL <http://www.fruehauf.co.jp/>

業界
NEWS



改定京都議定書目標達成計画で トラックのCO₂削減目標上積み

3月28日に閣議決定された改定京都議定書目標達成計画で、運輸部門の2010年CO₂排出量目標が、2億5000万トンから2億4000万トンへと1000万トン上積みされました。それに伴いトラック輸送の効率化による削減量割り当ても、それまでの約760万トンから1389万トンへと629万トン上積みされました。8割以上も引き上げられたことになります。

具体策では、車両の大型化、自営転換、積載率向上で削減量を上積みされています。トラック輸送業界は、旧計画で営業用トラックに割り当てられた1000万トン強のCO₂削減目標はすでに達成していましたが、今回の上積みにより、全日本トラック協会の環境対策中期計画の見直しを含めて、さらなる取り組み強化が求められる見込みです。

京都議定書目標達成計画は2005年4月28日に閣議決定されましたが、議定書の第一約束期間(2008年~2012年)の到来を控え、日本の目標である6%削減をより確実に達成するために改定計画が決定されました。旧計画の対策だけでは削減量不足が見込まれましたが、今後追加対策に全力で取り組むことで6%削減は達成しうると試算されています。

日本フルハーフにおまかせ!

充実装備のレンタル用冷凍車で あらゆるお客様のニーズに応える



株式会社TRUCK-ONE 代表取締役社長 小川 澄雄氏
株式会社TRUCK-ONE 取締役 桜井 誠氏
株式会社TRUCK-ONE 東京事務所業務部長 新宮 敬二氏



〔左〕フルハーフ購買部 技術課 係長 川口 往嗣
〔右〕フルハーフ購買部 技術課 課長 福島 宏
〔右〕日本フルハーフ 販売部 シニアマネージャー 服部 敏秀

冷凍車専門のレンタカー事業

当社は以前より中古車の買取・販売を手がけており、5年ほど前にレンタカー事業への進出を検討しました。その際、「ふつうの車では市場にマッチしないのでは」と考えたのです。そこで、当社の企業規模や他社の動向などを考慮し、扱っている業者の少ない冷凍車を専門とするレンタカー事業へと乗り出しました。それが2005年のことで、当時は病原性大腸菌O-157の事故などで、食品の安全性に対する関心が社会的に広まっており、冷凍車レンタルも成功を取ることができました。当初は5台だったレンタル用車両が、現在は40台にまでなっています。

レンタルのお客様はさまざまで、使い方もそれぞれ異なります。そのため、車両はどのようなオーダーにも応えられるように充実した仕様のものを採用しています。最大の特長は2温度帯輸送に適応した2エバポレータ2室式の冷凍車をそろえたという点で、これをレンタルしているのは全国でも当社が初だと思えます。

「安全・安心・清潔」が重要

自動車にはまず「安全・安心」が求められますが、中古車そしてレンタカーにはそれに加えて「清潔」「きれいさ」が求められます。きれいでないと100%の顧客満足は得られないと言っていいでしょう。当社のレンタル用車両のボディは全て日本フルハーフ製ですが、それは完成度の高さだけでなく外観・荷室内のきれいさまで評価してのことです。

お客様でほとんど全ての車両が、返却から次のレンタルまで1日と空けずに稼働しています。そのため、会社に置いてある短い時間の間に、十分な整備点検と洗車、清掃をしなければなりません。その点でも、フルハーフのボディの信頼性・整備性の高さに助けられています。あらゆる面で優れた車両を目指した結果、お客様のなかには「このレンタカーを売ってくれないか」とおっしゃる方も少なくありません。

冷凍車レンタルはこれからも伸びるでしょう。今後は、例えば真空断熱材を採用した、より高度な車両を導入するなど、時流に適応した拡充をはかりたいと思っています。

特長

①フルゲートフォルダー (床下格納式)

テールゲートが必要な業務はもちろん、ドックに着ける業務にも対応している。



②スタンバイ用電源装備

フェリー輸送時などのエンジン停止時にも外部電源で冷凍機を稼働できる。



③2エバポレータ2室式

荷室前後にエバポレータを備え、中仕切りの使用で2温度帯輸送に適応。



④ボディサイド保護板

ボディ外板をきれいに保つため、ドア開放時にハンドルが当たる部分は金属板によって保護。



⑤クリーンボード

清潔の維持のため、一般的なT字型の床ではなくゴミがたまりにくいクリーンボードを採用。



2002年当初、冷凍車のレンタル事業を開始するという事で、どのようなスペックをご提案すればよいかわかりましたが、こちらが悩むまでもなく小川社長は既に市場ニーズをつかんでおられました。小・中型多品種のロット発注でありながら、全ての仕様が固まっていた事には本当に驚かされました。

仕様の充実はもちろん、小川社長は品質面・耐久性も重視されています。工場にはそのつど、溶接・シーリング・仕上げ等、基本的な部分は特に注意するよう指示しました。簡単な事のようにですが、一つひとつの大切さを再認識しました。現在は様々な車種を納入していますが、特に問題も無く、製品的にはほぼ合格点を頂いているのかな?と感しています。

中古商用車の販売買取を柱に 自動車整備やレンタルも手がける

株式会社TRUCK-ONE(トラックワン)は中古商用車の販売・買取を柱に、それに関連した事業を幅広く手がけている。2006年には創設16年目にして福岡証券取引所Qポートへの株式上場を果たすという急成長を見ている。

本社は山口県下松市。車両センターを品川区・名古屋・岡山市にもち、東京事務所、沖縄営業所とあわせて全国的な事業を展開している。国内のみならずニュージーランド、ロシアなど海外への中古車輸出にも積極的だ。また、整備工場を所有しており、整備事業を手がけるほか、板金・塗装・車検など中古商用車に必要なことは自社で可能となっている。

「買い取った中古車はこの整備工場です二次架装などを排して、重量や形状を本来の形に戻しています。コストはかかりますが、コンプライアンスと環境への配慮という観点において、やるべきことであると判断しました。」(小川社長) そうした中古車の扱いで培ったノウハウを生かして、2005年4月には冷凍車に特化したレンタル事業を開始、数多くの顧客に好評を得ている。

2008年には新たに「冷え蔵」と名づけた冷凍冷蔵コンテナのレンタルも始めており、今後の成長にも期待される。

会社概要

会社名: 株式会社TRUCK-ONE
本社: 山口県下松市生野屋敷3-3-40
東京事務所: 東京都港区港南2-11-1 品川シティビル4階
設立: 1990年1月(創業1988年12月)
代表者: 代表取締役社長 小川 澄雄
従業員数: 40名

※株式会社TRUCK-ONE東京事務所

